

2022年
令和4年

入学試験

東京本館改修工事すすむ

本学は、東京富士見の築30年になる本館棟の設備改修を、2020年4月より2年半計画ですすめている。本年の3月には、本館の8階から3階までのフロアー改修が終了した。

2階からB1階および低層棟の改修がつづく。施設を利用しながらの工事なので、完了するのは本年9月になる。



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人
発行年 6 回
定価 1部100円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク

新型コロナウイルス禍 万全の感染対策



午前8時40分開始、英語の問題に取りくむ受験生

令和4年(2022)の日本歯科大学入学試験(前期)は、1月中旬の大学共通テストと2月初旬の本学試験を東京富士見において施行した。今年も、新型コロナウイルス禍、万全の感染対策を行なった。

今年の入学試験は、例年通り大学共通テスト利用入学試験と、本学で実施する一般選抜試験の二本立てで実施した。それは、同一試験日に東京と新潟の両学部を受験と併願が、可能な全学部入試である。

例年通り2月1日、生命歯学部において学力試験と面接試験を実施し、4日に合格者を掲示およびホームページで発表した。

大学共通テスト利用の入試は8日、本学指定の科目の受験者の面接試験を実施し、11日に合格者を発表した。

追って、一般選抜(後期)試験と大学共通テスト利用(後期)試験は、3月7日に生命歯学部で実施し、9日に合格者を発表した。

東京短期大学の一般選抜A入学試験は、2月6日に実施し、8日に歯科技工学科と歯科衛生学科の合格者を発表した。

新潟短期大学の一般選抜入学試験は、2月13日に実施し、15日に歯科衛生学科の合格者を発表した。

なお、いずれの入試においても、新型コロナウイルス対策として、受験会場玄関にて体温測定し、手指の消毒を励行させ、試験会場ではマスクの着用を指示した。受験者席の間隔と室内換気を徹底した。



玄関でモニターの検温をうける

小出教授(新潟) 最終記念講義



左より、藤井学長、小出教授、中原理事長

新潟生命歯学部歯科補綴学第一講座の小出教授の最終記念講義は、昨年12月23日午後6時15分より1時間、新潟講堂において行われた。

新潟生命歯学部歯科補綴学第一講座の小出教授は、昭和56年(1981)本学卒業(第68回卒)、大学院を修了して、60年新潟生命歯学部歯科補綴学第一講座の主任教授として、令和3年(2021)12月25日に逝去された。享年87。

薩摩林先生は、昭和37年に東京理科大学を卒業し、49年4月に本学歯学部化学の助教授、52年に教授となった。学生部長、学校法人理事等をつとめた。

このたびは、令和3年の日本歯科大学の活動を報道した全紙面が、そのまま縮小されて、本学の動向と発展の歴史を記録しています。ご希望の方は、送料込み一部千円です。ので、〒九五一一八五八〇の日本歯科大学新聞会へお申込みください。日本歯科大学新聞会

日本歯科大学 OPEN CAMPUS 2022

—受験生はもちろん、どなたでも参加できます—

◇生命歯学部(東京)オープンキャンパス

(新型コロナウイルス感染症の感染状況により、変更が生じる場合があります。本学HPでご確認ください)
5/28(土・通常)、6/12(日・校友対象)、7/28(木・通常)、8/3(水・多摩クリニック)、8/13(土・通常)、10/29(土・通常)、10/30(日・通常)

◇新潟生命歯学部オープンキャンパス

(新型コロナウイルス感染症の感染状況により、変更が生じる場合があります。本学HPでご確認ください)
6/12(日)、7/9(土)、8/19(金)、9/18(日)、10/8(土)、11/5(土)、12/4(日)

◇東京短期大学オープンキャンパス

(新型コロナウイルス感染症の感染状況により、変更が生じる場合があります。本学HPでご確認ください)
5/22(日)、6/19(日)、7/16(土)、7/29(金)、8/1(月)、8/26(金)、12/26(月)

◇新潟短期大学オープンキャンパス

(新型コロナウイルス感染症の感染状況により、変更が生じる場合があります。本学HPでご確認ください)
5/21(土)、6/12(日)、7/10(日)、8/10(水)、8/27(土)、9/11(日)、10/15(土)、11/6(日)



計報

薩摩林 名誉教授

日本歯科大学名誉教授の薩摩林貞美先生は、1月25日に逝去された。享年87。

薩摩林先生は、昭和37年に東京理科大学を卒業し、49年4月に本学歯学部化学の助教授、52年に教授となった。学生部長、学校法人理事等をつとめた。

会告

このたびは、令和3年の日本歯科大学の活動を報道した全紙面が、そのまま縮小されて、本学の動向と発展の歴史を記録しています。ご希望の方は、送料込み一部千円です。ので、〒九五一一八五八〇の日本歯科大学新聞会へお申込みください。日本歯科大学新聞会

本紙縮刷版59冊目



春分 医科病院(右端)を統合の新潟病院を海側から望む 立夏

山中 京大教授 中原 本学教授 競演

再生医療が未来拓く
東京歯の細胞とiPS細胞の可能性



東京都港区麻布赤坂歯科医師会創立一〇〇周年および京都大学iPS細胞研究所(CIRA)設立一〇周年の創立記念市民公開講座「再生医学が未来を拓く歯の細胞とiPS細胞の可能性」が、両会の主催により三月十七日、港区の国際医療福祉大学赤坂キャンパスの講堂において開催された。新型コロナウイルス対策として隔席にした講堂には、約三〇〇名の参加者が着席した。

十七時、麻布赤坂歯科医師会の大坪邦彦副会長(本学76回卒)の司会により開会した。

まず司会より、末松信介文部大臣の「わが国再生医療の取り組みに敬意と感謝を申しあげる」との祝辞が披露された。

はじめに、綱島俊幸会長が「新型コロナウイルス禍のため2年延期したが、昨夜の大地震をうけながら、晴れて本日開催の運びとなった」と、開会の挨拶を述べた。

ついで、第一部の講演(1)のトップバッターとして、日本歯科大学の中原貴教授が、「歯の細胞と再生医療」を口演した。

中原教授は「歯は人体の中でユニークな面白い組織であり、歯性幹細胞は、生命歯学として全身疾患の治療に役立てることが可能である」とし、本学独自の歯の細胞バンクから、私立大学第一号となる再生医療の計画の審査をする「特定認定再生医療等委員会」等につ

いて、細胞培養加工施設での培養業務、抜去乳歯や親知らずの細胞の採取法等の写真をまじえながら、30分間分り易く解説した。

次に、講演(2)の京都大学iPS細胞研究所の濱崎洋子教授が、「免疫の老化と再生医学」に関し、感染性微生物に対する感染防御と排除する免疫システムを解説し、「このうちT細胞は、抗生産生や食細胞の活性を制御し、ウイルス感染細胞やがん細胞を殺傷すること、とくに胸腺退縮機構一端からT細胞の加齢変化の実態と意義について30分間解説した。

次いで、講演(3)の京都大学iPS細胞研究所の山中伸弥教授が、「iPS細胞 進捗と今後の展望」に関し、体の細胞をリセットさせ、万能細胞をつくるiPS細胞(人工多能性幹細胞)について、「iPS細胞は、病気などの組織や臓器を回復させる再生医療への利用、また病気のメカニズムを探り新しい薬を作る「創薬研究」を広くすすめている」と、これまで歩んできた革新的な道のり、iPS細胞研究所の現状と今後の展望を、ユーモアをまじえながら30分間解説した。

休憩のあとシンポジウムに移る。モデレーターは神奈川歯科大学の河奈裕正教授が3教授に質疑する。中原教授は、多分化能をもつ歯性幹細胞の有用性を重ねて説いた。

山中教授は、「未開拓の領域のもつポテンシャルは大きく、iPS研究における発展の可能性は高い」とし、歯科との共同研究に大いに期待した。

さらに、若い研究者たち「挑戦して失敗しても失敗の中にチャンスがある」とアドバイスした。

おわりに、山中教授が謝辞を述べて、19時半に閉会した。

